

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会  
第1回 PRA品質確保分科会 議事録

1. 日時 第1回：2012年10月12日（金）10:00～12:00

2. 場所 電力中央研究所 第一会議室

3. 出席者

（出席委員）越塚主査（東大）、成宮副主査（関電）、喜多幹事（TEPSYS）、糸井委員（東大）、大類委員（JNES）、岡野委員（JAEA）、桐本委員（電中研）、倉本委員（NEL）、山中（上良委員代理）（原電）、曾根田委員（日立GE）、小森委員（東芝）、田中委員（MHI）、竹下委員（中電）、村田委員（原技協）、山内委員（東電）（15名）

（常時参加者）安田（関電）、前原（関電）、鈴木（TEPSYS）（3名）

（傍聴者）根岸（GIS）、佐藤（日本原燃）（2名）

（事務局）室岡（原子力学会）

（敬称略）

4. 配布資料

RK4SC1-1 人事について

RK4SC1-2 PRA品質確保分科会の設置について

RK4SC1-3 PRA品質確保実施基準（仮称）の論点と対象範囲についての考察

RK4SC1-4 PSAガイドラインにおける「専門家判断」「ピアレビュー」「品質保証」に係る要求事項

RK4SC1-5 既策定標準での記載（L1PSA、停止時PSA、地震PSA津波PRA）

RK4SC1-6 PSAピアレビューガイドライン（平成21年6月）一般社団法人 日本原子力技術協会

参考資料

参考-1 標準委員会の活動について

参考-2 リスク専門部会における標準策定計画（案）

## 5. 議事内容

### (1) 人事について

- ・ 分科会委員による主査の互選により、越塚委員が主査として選任された。また、越塚主査により副主査に成宮委員が指名され、主査、副主査の協議により幹事に喜多委員が指名された。
- ・ 常時参加者 3 名が承認された。

### (2) PRA 品質確保分科会の設置について (RK4SC1-2)

資料 RK4SC1-2 により、PRA 品質確保実施基準について説明があった。なお、本資料はリスク専門部会にかけて承認を得た資料に少し言葉を変更したものである。PRA 品質確保実施基準（仮）の名称は、本分科会にて検討する。

今後の予定としては、12 月のリスク専門部会にて本分科会の状況を報告する。これは現在改訂作業中の運転時レベル 1PRA 標準や地震 PRA 標準が最終的に本標準を引用するのに間に合わせるためである。

### (3) PRA 品質確保実施基準（仮称）の論点と対象範囲についての考察 (RK4SC1-3)

資料 RK4SC1-3～5 により、PRA 品質確保実施基準（仮称）の論点と対象範囲について提案があり、主に以下のような議論となった。

- ・ 品質や専門家等の話は共通的なことであるため、各標準で個別に記載すると更新の際に混乱が起きないようにまとめておきたいことから、本標準を作成する。
- ・ 本標準の最終形としては、各 PRA 標準の附属書にある「専門家判断」「ピアレビュー」「品質保証活動」について、共通事項をまとめ、個別の要件は各 PRA 標準に書き、各 PRA 標準からは本標準を引用する方向とする。
- ・ 専門家判断について、本標準で記載する範囲、各 PRA 標準で個別に記載する範囲について議論する必要がある。また、専門家判断とは、「基準として技術的要件に落としこめるような場合」と、「エンジニアリングジャッジのようなところに求める場合」があると考えられるため、これらの要望をはっきりさせるのが大事である。現在の PRA 標準や品質ガイドラインでは全部まとめて専門家判断と書いているために、このあたりの整理が必要である。
- ・ 品質保証については ISO9001 や JEAC4111 があるが、その範囲内だと読むのか、範囲外で読むのか等、この分科会で何を議論するか方向付けが必要である。
- ・ 品質ガイドラインや PRA 標準によって「品質」に対する言葉の使い方が異なるため、用語等を固める必要がある。

### (4) PSA ピアレビューガイドライン (RK4SC1-6)

資料 RK4SC1-6 により、PSA ピアレビューガイドラインの内容の紹介があり、主に以下のような議論となった。

- JEAC4111 にも ISO9001 にもピアレビューについては書かれていないため、別項目を立てて記載する必要がある。
- PSA モデルの保守と更新に関する要件は個別の PRA 標準の中に書かれていないため、本標準での記載の要否、必要な場合にはその記載ぶりについて議論する必要がある。
- PRA の品質とは何か、例えば「学会標準の適合」、「詳細なモデル化」、「適切な更新管理」等、ついて整理し、共通認識とした上で、それを満足するためにピアレビューや専門家判断等を活用していくなどの体系的に整理が必要である。そのために用語、定義等を明確化させて議論する方が、共通認識を取りやすいとの意見があった。
- PRA のツールや解析コードの品質について各標準の中に記載があるが、これらのような共通事項を共通的要件とする必要があるかについても議論をしておく必要がある。

(5) 今後のスケジュールについて

- 次回の分科会：11月22日（木）午後

<内容>

- 課題になったことの方性の議論（用語の定義、概念の仕分け、保守更新等の議論等）
  - 文献調査の紹介（ASME 等）
- 12月3日（月）のリスク専門部会にて本分科会の状況報告を行う予定
- 本標準を策定した際の各個別の PRA 標準の対応としては、改訂や策定をしている標準から反映してもらい、これから改訂する予定の標準については改定時に反映してもらう。
  - レベル 1PRA が一番早く本標準を反映する予定であり、スケジュールは 12 月の部会で中間報告、3 月の部会で最終報告という予定である。

以上